

平成24年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

((中間) ・ 最終)

倉橋東中学校区 校番35 学校名 呉市立尾立小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学習習慣を定着させ、基礎基本を身に付け、活用できる能力を育成していく	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員の授業力・指導力の向上を図る。 ●学習規律の定着を徹底し、家庭学習を習慣づける。 ●読書活動を充実させる。 ●表現力・思考力・集中力等を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ●「基礎基本」定着状況調査における児童アンケートの回答分析の中で、普段の生活の中で、読書をする時間がほとんど取れていない実態を改善するため、日課表の中に「読書タイム」を週3回(15分)設け、学校や家庭での読書を「読書貯金」として冊数やページ数で記録している。低学年は年間100冊、中学年は7000ページ、高学年は10000ページの目標を設けているが、家庭での読書習慣が身につけていないので、十分な成果が見られていない。 ●学習規律の定着と、授業における表現力・思考力・集中力等を育成するための手段として、低・中・高学年の実態に応じた話型モデルの徹底を図っている。授業の中で、自分の考えを話型にあてはめて、表現できる児童が増えてきている。1学期終業式では、1学期頑張ったことを、各自原稿用紙1枚程度にまとめ、全校児童の前で、原稿を見ずに、大きな声で発表できた。話型モデルを使った話し方の定着で、論理的思考力も育成されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土、日の宿題に「読書日記」を取り入れ、家庭での読書習慣を身につけさせていく。読書日記の書き方マニュアルを作成し、児童の実態に合った読書日記が書けるよう支援している。2学期からの読書朝会では、読書日記の発表をするなどして、読書に対する意欲を高めたり、家庭での読書習慣を定着させるように、声かけを行っている。 ●話型モデルの発展として、国語科では、書くこと、読むことの領域でも、教科書の文章構成をまねて、手紙文、物語文、説明文を書く学習を重視していく。算数科では、説明する力をつけるために、算数用語の意味を確実に理解させ、ノートに自分の考えをかかせ、図や式を使って、論理的に説明させる時間を1時間の中に必ず位置付けていく。
**	自己肯定感を高め、規範意識・社会性のある児童を育成していく。	<ul style="list-style-type: none"> ●倉橋東中学校区「5つの約束」の定着を徹底する。 ・進んであいさつ ・きちんと返事 ・時間を守る ・正しい言葉づかい ・整理整頓 ●道徳的实践力を育成する。 ●自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●倉橋東中学校区「5つの約束」の定着を図るために、月別生活目標に位置付けて継続的に指導している。また、登校・下校の際には、職員室に挨拶に来ることを習慣化した取組をしている。多くの児童が、意識して、大きな声で気持ちのよい挨拶ができるようになってきている。登校・下校の際には、地域の方に対する挨拶も奨励しているが、地域の方からも、児童がよい挨拶をしているという声も頂いている。 また、「はいっ」の返事を教室に掲示して意識付けることで、名前を呼ばれた時の返事が、大きな声で、きちんとできるようになってきている。「はいっ」の返事は、学習規律の向上につながっている。 ●学期末に行う児童アンケートの「学校は楽しいですか」の項目で、ほとんどの児童が「楽しい」と回答しているが、児童の実態をつかめるよう、児童とのかかわりを増やし、児童のどんな小さな変化やサインも見逃さないよう、教職員による児童観察を今後更に密にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小人数のよさを生かした取組の一つに、朝と帰りに、児童全員が職員室に挨拶に来ている。全員が、立ち止まって、相手の顔を見て、気持ちのよい挨拶ができるよう指導の徹底を継続する。また、道徳教育との関連で、進んできもちのよい挨拶をすることが、自分も周りの人も明るく元気にすることを体験的に理解していく中で、心の耕しを行っていききたい。 ●毎週金曜日放課後に「生徒指導連絡会」を開いている。1週間の児童の様子を学級担任だけでなく、養護教諭や他の教職員からも情報を得ることができ、児童を多面的に理解していく場になっている。生徒指導連絡会で教職員が共有した児童の頑張りや、良さを児童に伝えることで、児童の自己肯定感を高めていきたい。
*	<p>望ましい生活習慣の定着と、健康と体について自ら考え、改善していく行動力を育成していく。</p> <p>小中一貫教育の推進と、地域・保護者と一体感のある開かれた学校をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的な生活習慣の定着と食育を推進する。 ●積極的に情報を発信し、学校応援団を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月「生活振りかえりカード」を活用しながら、「生活振りかえり」週間を設定し、養護教諭が中心となり児童の基本的な生活習慣と食育についての個人面談を継続してきた。生活上の気になる事柄は、学級担任と連携し、「生徒指導連絡会」の場でも情報の提供をしてもらい、児童一人ひとりについて、生活改善に向けての話し合いの場ももたれた。 ●業間体育で鉄棒、持久走をおこなったが、明確な個人目標が持てないまま取組をしていたことがあったので、達成感が持ちにくかった。 ●1学期に、小中合同運動会、日曜参観・創立記念行事を行い、夏季休業中には小中合同ボランティア活動、尾立小学校での全校野外活動、親子清掃活動を開催し、学校・地域・保護者が一体となった取組をすることができた。 ●ホームページの更新は、月2回程度のペースで進み、学校の新しい情報を、発信することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「生活振りかえりカード」で明らかとなった児童の基本的な生活習慣と食育についての課題を、学級担任や保護者との連携を密にしながら、一つ一つ解消していくよう、個に応じた指導を行っていく。 ●2学期からの業間体育では、「今日は、* * *ができるようになる。」という具体的な目標を持たせて取組むことで、集中力と達成感を持たせていきたい。 ●地域公開道徳参観日、学校へ行こう週間(地域公開授業参観・ふれあい給食会)等の情報を地域・保護者に積極的に発信し、より多くの方の参加の中で学校行事を進め、地域を誇りとし、地域の中で育つ子どもを育てていく。 ●ホームページの内容を、今後も月2回程度のペースで更新していく。

平成 24年度 学校関係者評価及び改善策

((中間)・最終)

倉橋東中学校区 校番35 学校名 呉市立尾立小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	児童数7名という少ない人数であるが、色々な教育活動に具体的な目標・指標を設定し、懸命に取り組んでいることが分かる。今後、大人数の中でも自分の気持ちが堂々と言える児童に育ててほしい。また、児童一人一人の学習のつまずきを見つけ、きめ細かい指導で、確かな学力をつけてほしい。
目標達成のための方策の適切さ	A	具体的な方策が示しており、分かりやすい。尾立小ならではの取組(学びタイム・放課後自主学习・業間体育)もあり、効果がでていると思う。統合後も、その取組で生かせるものは生かしてほしい。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	児童アンケート、保護者アンケート、教職員による評価を的確に分析している。今後、アンケート結果を分析して、一人一人の良さ・可能性に着目し、その力が伸びるように指導をしてほしい。また、子ども達のどんな小さなサインも見逃さず、子どもの心に寄り添った愛情豊かな教育を続けてほしい。
今後の改善策(案)の適切さ	B	昨年度から、子どもの自尊感情が高まってきているのが評価できる。今後も児童一人一人のよい面をしっかりと見つけ、認めていってほしい。しかし、学力面において、国語科では「読むこと」の領域で、段落相互の関係に気をつけて読むことができにくい、算数科では、「数量関係」の領域で、伴って変わる数量の規則性を見つけ、一般化することができにくい等、毎年同じような課題が上がってきているので、改善策として出てきている方策を学校が集中して取り組んでほしい。
その他		

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力をつけるために、個に応じた指導の充実を図る。 ○児童一人一人のよい面、可能性を見つけ、知らせていくことで、児童の自尊感情を高める。 ○縦割り活動、全校活動、業間体育など、小人数のよさを生かした取組をすすめる。 ○大人数の中でも、自分の気持ちや思いがはっきりと言える児童を育てる。 ○地域を誇りに思い、大切にしている心情を育てていく。
--------------------	--